

令和2年2月21日合同研修会

青島日本人学校の実践



青島日本人学校の日本語指導

- ①課外の日本語教室
- ②個別の日本語指導
- ③在籍級での日本語指導
- ④全学年でのバイカルチュラルの視点からの教科指導

①日本語教室

- ・小学部1年生
- ・毎週金曜日(課外・45分間)

<開設するにあたって>

入学前に日本語指導が必要な児童の保護者と相談。入学直後に日本語教室での学習を開始。

1学期(4月～7月):生活に必要な日本語

⇒一日も早く周囲とコミュニケーションができるために必要な語彙を中心に学習

	毎週金曜	学習内容	教材
1	4/19	ぼく・わたし	おひさま (はじめのいっぽ)
2	4/28	かぞく	おひさま (はじめのいっぽ)
3	5/5	いろ・かたち①	おひさま (はじめのいっぽ)
4	5/10	いろ・かたち②	おひさま (はじめのいっぽ)
5	5/17	ごはん・おやつ①	おひさま (はじめのいっぽ)
6	5/24	ごはん・おやつ①	おひさま (はじめのいっぽ)
7	5/31	やさい・くだもの	おひさま (はじめのいっぽ)
8	6/14	せいかつ①	おひさま (はじめのいっぽ)
9	6/21	4月～6月の復習	
10	6/28	せいかつ②・どうぶつ	おひさま (はじめのいっぽ)
11	7/5	はな・き、きせつ	おひさま (はじめのいっぽ)
12	7/9	いたい	日本語学級①
13	7/12	わすれた、かして、ありがとう	日本語学級①
14	7/19	1学期の復習	

実践例1: 「いろ・かたち」の学習(5/10)

- ①「いろ」の名前を確認する。
- ②カルタで楽しみながら「いろ」の名前を覚える。
- ③教師が発した色を塗る活動。

① 「いろ」の名前の確認



②カルタを通して、繰り返し「いろ」の名前を聞く、話す



③教師が発した言葉を聞きとり、語彙の定着を確認



2・3学期(8月～1月) ⇒ 教科内容の先行・補充学習

	毎週金曜	学習内容	教材
15	8/23	これ・それ・あれ・どれ①	日本語学級①
16	8/30	これ・それ・あれ・どれ②	日本語学級①
17	9/6	～は（イ形容詞）です	こどものにほんご①
18	10/11	くじらぐも	教科書（こくご）
19	10/18	～が あります/います	こどものにほんご①
20	10/25	助詞の用法	こどものにほんご①
21	11/15	じどう車くらべ	教科書（こくご）
22	11/22	日づけとよう日、おおきいかず	教科書（こくご・さんすう）
23	11/29	日づけとよう日②、数え方	教科書（こくご・さんすう）
24	12/6	たぬきの糸車	教科書（こくご）
25	12/13	たぬきの糸車②	教科書（こくご）
26	1/10	どうぶつの赤ちゃん	教科書（こくご）

台北の実践を
参考にしながら
取り組んで
います



VI_0816

「**田づけとよん田**」
 一こたつの使い方に強い関心
 を持ちました。



「**おおきいかず**」

iPadを使って、10ずつ囲みまし
 た。10のまとまりを理解するこ
 とができました。

「**たぬきの糸車**」

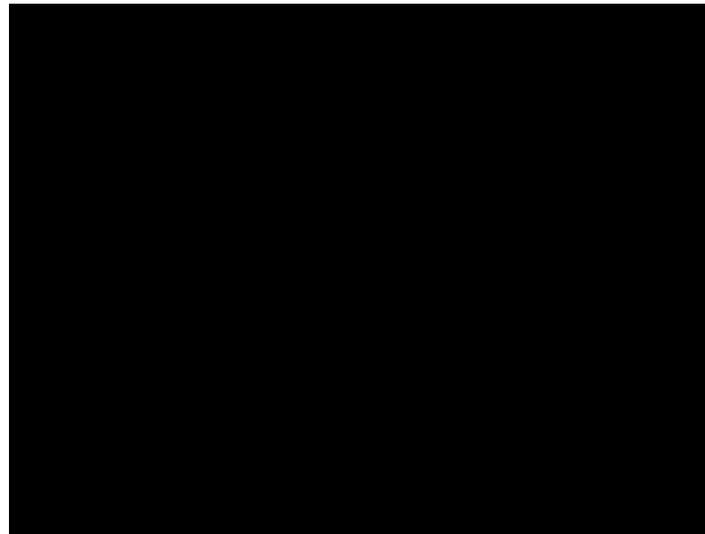
カルタを使って語彙を確認し
 ています。



「**むん車へんぐ**」
 在籍級でのまとめにむけて、
 「しじゆ」「しんぐり」のキーワ
 ードを見つけ、メモしました。



実践例2: 「じどう車くらべ」 より(11/15)
～日本語教室の様子(動画)～



★2年間の個別指導で気付いたこと(小1)

- 4月～10月は吸収する時期。
- 11月以降に、たまった水があふれだすかのように、急激に発話量が増える。

【A児童の例・11月】

音楽の授業中、周囲の子どもたちがA児童に中国語で教師の指示を通訳した。それに対し、「わたし わかる！」と怒った。

⇒この日まで、ほとんど進んで日本語で発話することがなかった。この日を境に、表情が明るくなり、発話が増えた。

②個別の日本語指導(取り出し)

※週1回、個別の取り出し指導を行っている。
(今年度は2名の生徒が対象)

★中1(1名)→毎週金曜日
⇒在籍級は学活の時間

★中2(1名)→毎週火曜日
⇒部活動の時間



13	学習項目；～て います (身につけていることを表す)、～て ～て (順次動作)
9/27 (金) 岡本 (音楽室)	1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 宿題点検 3. 教科の学習用語 (理科) 4. 「～て ～て」P. 22～
指導メモ	・動作に関する動詞は全て忘れていた。繰り返し確認する必要がある。 ・発話時に、夕行に濁点がついてしまうので、時々修正した。 ・明日から国慶節の連休ということもあり、連休の過ごし方について、うれしそうに教えてくれた。また、先生はどのように過ごしますか?と質問し、会話が弾んだ。 今日の理科の授業で、「実験の結果を予想しよう」という発問の意味が理解できず、プリントに何を書けばよいのか分からなかったため、書き方を説明し、復習をした。
14	学習項目；～は (主題) ～が (部分説明)
10/18 (金) 岡本 (音楽室)	1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 文型練習 (P. 25～) ① ～は (主題) ～が (部分説明) ② ～くて (イ形容詞+形容詞) ③ ～で～ (ナ形容詞+形容詞/名詞の接続)
指導メモ	・1の正答率は50パーセント。動作をしながら語彙を確認した。 ・2の文型は定着している。問題ない。 ・中国語の「那个」と日本語の「なんか」は発音も用法も似ていて、不思議な感じがする。と話し、語頭の「なんか」は、いつ・どのように使うのか、と中国語で質問してきた。楽しそうに日本語の学習に取り組んでいた。
15	学習項目；～てもいいですか。～てもいいです。
11/15 (金) 岡本 (音楽室)	1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 文型練習 (P. 36～) ①いいですか ②～ないで ください ③～そうです (様態) ④～みたいです (比較) 3. 教科の学習用語について困っていることを聞く
指導メモ	・文型練習「～ないでください」の動詞の変換ルールがなかなか理解できずに涙ぐむ場面もあったが、「あいうえお表」を用いてルールを確認したところ、変換のイメージがつかめたようだ。・期末テストが迫っており、理科と社会に困り感があるようなので、次回の日本語教室では学習日本語について勉強する約束をした。今日は中国語で教師に話しかける場面が多かった。

(例) 着物 (和服) を (きる) → (き) ています。

① 帽子を (^{ぼうし} かける) → (^{かぶ} かけて) います。

② ブラウスを (^{ブラウス} 着る) → (^き きて) います。

③ かばんを (^{かばん} もつ) → (^も っ て) います。

④ めがねを (^{めがね} かける) → (^か けて) います。

⑤ ネクタイを (^{ネクタイ} つかひ ける) → (^つ けて) います。

⑥ スポンを (^{スポン} はく ける) → (^は いて) います。

⑦ スカートを (^{スカート} きる) → (^き いて) います。

⑧ 時計を (^{時計} つかひ ける) → (^つ けて) います。

⑨ くつを (^{くつ} はく ける) → (^は いて) います。

⑩ ベルトを (^{ベルト} つかひ ける) → (^つ けて) います。

中1男子の指導記録より

特に理科と社会への困り感が強い
ため、担当はできるだけ在籍
級の授業を見に行き、個別指導
の時間に支援している。

③在籍級での日本語指導



「じどう車くらべ」

クレーン車のしごとと
つくりをまとめよう



★在籍級担任が心がけていること (ポイントと成果)

ポイント

- ・掲示物の作成
- ・音読指導
- ・動作化
- ・動画や写真の利用
- ・作文指導
- ・曜日や月日の言い方

成果

音読

ほとんどつかえることなく、初めて見る文章でも正しい発音で音読することができる。

発話

- ①教科書の物語文や説明文の理解ができている。
- ②言葉による置き換えが可能（「えものをとる」⇒「かりをする」）
- ③物語のすきなところを日本語で言ったり、中国語で説明したりすることができる。
- ④学校からの連絡を、家族に中国語で説明できる。

作文

簡単な文章を作文することができる。

④バイカルチュラルの視点からの教科指導

本校の中期目標:

「多様性を理解し、自他を尊重しながら切磋琢磨する児童生徒の育成」

バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のために

児童生徒が中国や青島での生活や学習を通して

- ★世界には多文化・多言語・多様な価値観があることについて理解する
- ★日本の習慣・文化・伝統との比較、検討する

物事を多面的・複眼的に捉えることができる児童生徒

★各教科の取組

10/21 職員研修 バイカルチュラルの視点からの教科指導

・各教科の授業の中で、日本と中国の共通点や相違点などを考える場面を設定するには、どのような活動が考えられるか。

国語 (中山)	<ul style="list-style-type: none"> ・下関交流（異文化交流、中国を紹介する） ・音読指導（朗読） ・漢詩 ・漢字（音読み・訓読み・成り立ち） 	
算数 (岩本・福留)	<ul style="list-style-type: none"> ・計算、数字の言い方、買い物ゲーム ・九九の唱え方、算数用語 ・多面的なものの見方、考え方 ・場所や地名を問題に取り入れる 	
理科 (尾崎・長崎)	<ul style="list-style-type: none"> ・天気、気候、科学的な語説の比較 ・植生 ・地質 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> 視覚支援（動画、画像） 漢字（ルビ）←中国語 用語カード 短い文章 </div>
社会 (小谷)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の歴史 ・アジアについて→中国をより深く単元構成 <u>二つの文化を持つ児童生徒が活躍できる</u> （比較対象） 	
英語・中国語 (迎・吉浦)	<ul style="list-style-type: none"> ・年中行事で日本と中国の文化を比較する（食文化、新学期、春節など）。 ・文法（主語+動詞）など、英語と中国語の比較 ・漢字（中国語と日本語の意味の違いを英語で学ぶ）。 	
音楽 (岡本)	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲を一番日本語、二番中国語で歌う。・唱歌を中国語で歌う。 ・日本民謡と中国民謡を歌ったり、楽器で演奏したりする。 ・日本と中国の伝統楽器（箏、横笛など）を弾き比べる。 ・中国から日本に伝わった楽器について、共通点と相違点を調べる。 	
図工・美術 (富川)	<ul style="list-style-type: none"> ・図工は日本特有の教科。 ・アートを通して世界とつながる ・アーティスト、文化遺産（雪舟、北斎、墨絵、世界遺産） 	
体育 (徳永)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ全般のルール ・国技（相撲、太極拳、卓球） ・交通ルール ・飲酒、喫煙、病気の対処 	
技術・家庭 (吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本料理と中国料理（盛り付け、数、残す残さない、考え方、マナー、礼儀など） ・中国から日本へ伝わった料理。 	



二胡の演奏（音楽科）



芝麻球（ごま団子）づくり
（中国語）

中1社会(地理)の実践から 「世界から見た日本の自然環境」

5. 本時の学習 (3/6)

(1) 目標

- ・ 景観写真や統計資料を参考に、日本と中国、世界一の河川の比較を通して日本の川の特徴を考察する。
【思考・判断・表現】
- ・ 川と平地の関連に着目し、平地には平野や盆地など多様な地形が見られることをつかむとともに、地形と土地利用の関連について理解する。
【知識・理解】

(2) 展開

	○主な学習活動・学習内容	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価	資料
活動の開始 10	○川と平野について二つの写真を比べてどちらが日本の写真かをクイズする。 全体	・世界の川と平野については、世界の諸地域での既習事項にかかわる写真からスタートして想起させる。その際、小学部6年生の修学旅行に行った時の黄河の写真を入れて興味・関心を高めさせる。 ワークシート	プレゼンテーションソフト『どちらが日本?』
活動の展開 20	○学習課題を知り、答えの予想を立てる。 個人	・このクイズを通して漠然と頭に浮かんだ内容や小学校の既習事項として学んだ地理的特色を、まずは言葉としてまとめさせる。	河川の景観写真グラフ『世界の川と日本の川』 ワークシート
活動の展開 15	○それぞれが記述したことを発表し、他の人の発表から気付いた内容をメモする。 小集団	・生徒が書いた内容については、他の模範となる回答には線を引く。 ◎世界と日本の川をグラフや景観写真、主題図などを用いて比較し、それぞれの位置や形状の特徴を考察している。 【思考・判断・表現】 ・教師は間に入り、発表がスムーズにいくように助音しながら回る。 ・面積の大きい中国とブラジルの河川の特徴が似ていることに注目させる。	ワークシート フランスとの比較資料
まとめ 5	○評価コーナーに本時の意見や感想を書く。次時の授業についての確認をする。	・分かったこと、気づいたことを具体的に記述させるようにする。	評価コーナー

二つの文化を持つ生徒は、

☆川の写真を見て、「長江!」「黄河!」
と、すぐに反応があった。

★今後は単語で終わらせずに、思いや
考えを短い文章で言えるようにしたい。



おわりに

今後多岐な方面から日本語指導にあたり、
教職員全員でバイカルチュラル人材の育成
に取り組んでいきたいと思っております。

